

門 伊
番 2,594
卷 108

門 伊
番 2,594
卷 108

拾遺歌の枝折巻之又

目録

- 一 徳正浪士菰波山一集巻之半
- 一 兼 浪士村巻之半
- 一 浪士新三入浪升張紙之字
- 一 兼 菰波山一徳正浪士之半



一 九月十日 夜 日中 揚子 張紙 一年

三



乙未年甲子月七日

漢口百人館 小川百人館

廣島百人館 小金百人館

薩摩百人館

右者 江表 一の南 多分 水戸
浪士 とりあがり

東照宮并に別宮に木橋を大物軍と
して橋名をせんと志を立し今森連川
為に橋を森連川落申皆に心儀を角
共統十人得乃

幸蔭の傳子

大物

田村編右馬

田使番

珍本席右席

孫右席

赤坂右席

宇佐兵衛宗右席

勝田徳右席

伍長

木村久之丞

千原宗房

中村源五郎

木村秀之助

總裁職

原田小次郎

市田喜舟

原吉次郎

小栗小左衛門

守部之丞

下田彈正

提軍

恒長

三浦中六

回中裁所

小搦新州

赤村六郎

田中一長一師

一四三

調練其新調此九人以前之各教之人
右一居士法之張紙本附一字

高王播史 神州之書十九了今

更中述日今之惟得去稿之凡此神州

開闢以後

皇統御一姓天日嗣受嗣又二七以海表

歴一之く威積盛大なり万国之阜施
後世に至る小糸相州蒙古ノ磨石之費
大國朝鮮ヲ征スル皆是神ノ固有ノ勇
氣ヲ振ヒ

太祖以來明刻ヲ奉セシ者ニテ大藏公
者別ニ深ク心ヲ盡サセラシ教百年左平ノ
基ヲ御用キ被極振振者心音也

為王播来ア大義ヲ奉ハカレ儀義ニテ
徳川家ノ大典

為王播来ヨリ重キハ各々様相成ニ実
實クシキコトナラスヤ極ルニ方今ノ其状案
ハ一日ノ甚シ人心ハ同前ノ安愉ヲ加ルニ
其邪勢ニ系

天朝ノ教意御貫徹ノ行免来ナク

祖宗大刻振張ノ朝王女之

神州之地ニ余レ 神州ニ恩格スルモ只々

子ノト傍託庶親スルニ忍ヒシヤ

我等誓テ

東照宮遺則ヲ奉シ如邪謀國ノ罪ヲ

正シ醜夷ノ外寇侮ヲ防キ

天朝幕府ノ鴻恩ヲ報セシハ欲スルニ有

嗚呼今日急歸シ誰カ報効ノ意ナカラ

ニヤ又誰カ勇狄竊身ヲ作キ彼カ正朔

奉スルニ忍ニヤ既ニ報効ノ志ヲ抱キ又勇狄

ノ授誅ヲ憤リナカラシメテトシテ固備身

日ヲ追ヒ往ラシ神風ヲ待ヒハ実ニ

神州思男ノ願ル所ナラスヤ冀クシテ緒國志

愴士不之進退去就ヲ決シ恩我ニカケテ

上ハ

天朝之朝し奉下者幕府之神翼之
神州之威積。萬國之群し儀振政度
我黨素願念故コトニ在

東照宮在天ノ神翼御照後可被極
天將才力陳セシ

衣之通法新ノ法並此ノ一南四月
七日夜江戸守部宮屋敷一岡屋五元
ノ下打至来五日分諸浪士ども
計百ノ年一守部之文極ノ之強被令殺
別分ノ本像と目書ノ細目ヲ打通
少振中ノ本亦同様言及止少許同以
中時旅宿ノ一ノ一ノ一
あつりりノ教子ノノ被成少許水戸

江波合衆ありの據ありて
是處ありて殿の陸法あり志ありし
終よりありし人定然らるり同者
おれり少半一お成りるるに押しお
ふたどけちびき頭標も重役列居
仙臺おありし人教も一味し中し
後方し勢より中し有るありし
於官産ありし日ありしり江波あり

して海西にお成りし中江波あり
来始ありし一ありしり

壬戌四月廿二日歌

鶴澤和泉守及上京の村死にあり
浪人和泉守及下都を不用根子
出帆波江内廿二日内見歌の思信
和泉守及和泉守の内及場を所集

依是の捕手三向以中端以之を用
以之射是是海及及丹傷之由是乃所痛
也深手負以醫療お用ひ以てとも
おふ付し中中し以て射を醫療しは精
と彩並切腹しはしはりの可印と
怪事人ありしは射手治士七人みれ
おふは別右道場子所痛く死せし
治東、おわく、東福寺、中、所宗院

江蘇の其治名

智道宗旨居士

と中とや、穢之、智略之、指れ、却、樹、衣
何の地、後、り、も、多、く、い、人、を、と、り、不

蘇波山浪士の号

討手お初上船台侍城主

所高八百石 松平衣京堂

鎌平新 上品志組

淨目附 小出友

是志七月十日討死は波より一四時

と思ふ大敵志

飛波山下敵城自清言武万石

石川義経書友

下妻の清海家出馬志万石

井上伴孫書友

望馬城自清言八万石

牧野敏中書友

右何事も七月九日十日の戦い大敵

軍一少少海家引揚 二折成出米水千敵

四勢清治にお成多の勢力通新は波

尤大敵軍大敵一支配新水千敵

所かど中へ遠れおまゆり
も一頁くの故軍ありて南洲の海路
古河の宿りり之類文日よりて
お成先合戦も本州に在る
十日清徳ありてたし通り

松平清直
南波為清直
佐竹右京守
御膳番
金田自
杉本
松平孫八郎

右何れも合之校
お成先
お成先

是迄横濱表松平大松書様
お成先
お成先

子九月十日日抄橋山浩法紙ノ字

一長州屋敷赤目寺山年一々蓋一杜方
公俊之藏書を毎々積む一印白
公俊之赤目寺通今之思以紙通一
防長之運送をその弟信目一
之直とや勇哉一因新也亦顧
一刻と云と悔ふ長郎再建法寺
一六 公俊之仕合め書紙と云

且此や主介部おの料理屋を
を入宰らせ又長船をけむる者を
聖ら半一何そ心の子イサキ天は
口なる一以人いさむらあるの候らる
知らずや所人まを知らず能くめ者
洲くはむるま浪半不波直又
一去年来 將軍浦上港より前後
雜用所より相浪船受る

一町内より後世まで先給半一亦
張おしりま物標多し清養方 玉泉
安長め為と四ひの介一京款一私房
職く會津藩おを陣一並山半一何
此ハ 將軍浦上港のいらぬ前後第一
上港をまら一文も所人より相浪せま
手別く金持多し補ひの浪半一
一公儀一恩とち過るニツ也物らよま

似浪士押入大妻を奪取し長以年
交りなりしかしも古妻あり味
有く謝布しつらぐすくとおぢけ
盗まふ法をかんぐくおまかり難斗之
京新く大力の倉蔵物も大蛇子以
新ちし一百姓の者しめ主難治理
ふと名は業し世京大坂所人も一門
海世をも始く弟新亦法取らます

高ぶるもお成是又何く味もせし
公儀何の思ふらるるら百年集安
塔く海世志み前
東照神文の賜恩之令存存も
日月くまや
沖分候し湯用金出候る所もな
たとし控威せりつし用意令中
たふの然らる申一もつなり

ゆきし〜おするれを播きし〜
惜し〜あり〜是れ也

仁政を以て強きあり〜ゆきし
泉安民を以てする時〜
至る百子合〜
あり〜
天下〜
大樹〜

能く穂倉令士志
公候〜
道なり也

一山崎宮神天白皇陵
東照宮の御禊舎
天白皇
後醍醐天皇
山天白皇

亦を放た後——計二百里別して
南 天子あり先祖之節一
勅命あり

天子志親不孝也 是金倉等の
勅命を納りし年——而之物を京家
く 物欲する事 而白也 ぬ倉あり
牛 裂裂以行ありも不確也

一 播野人の中を同備地息するに依

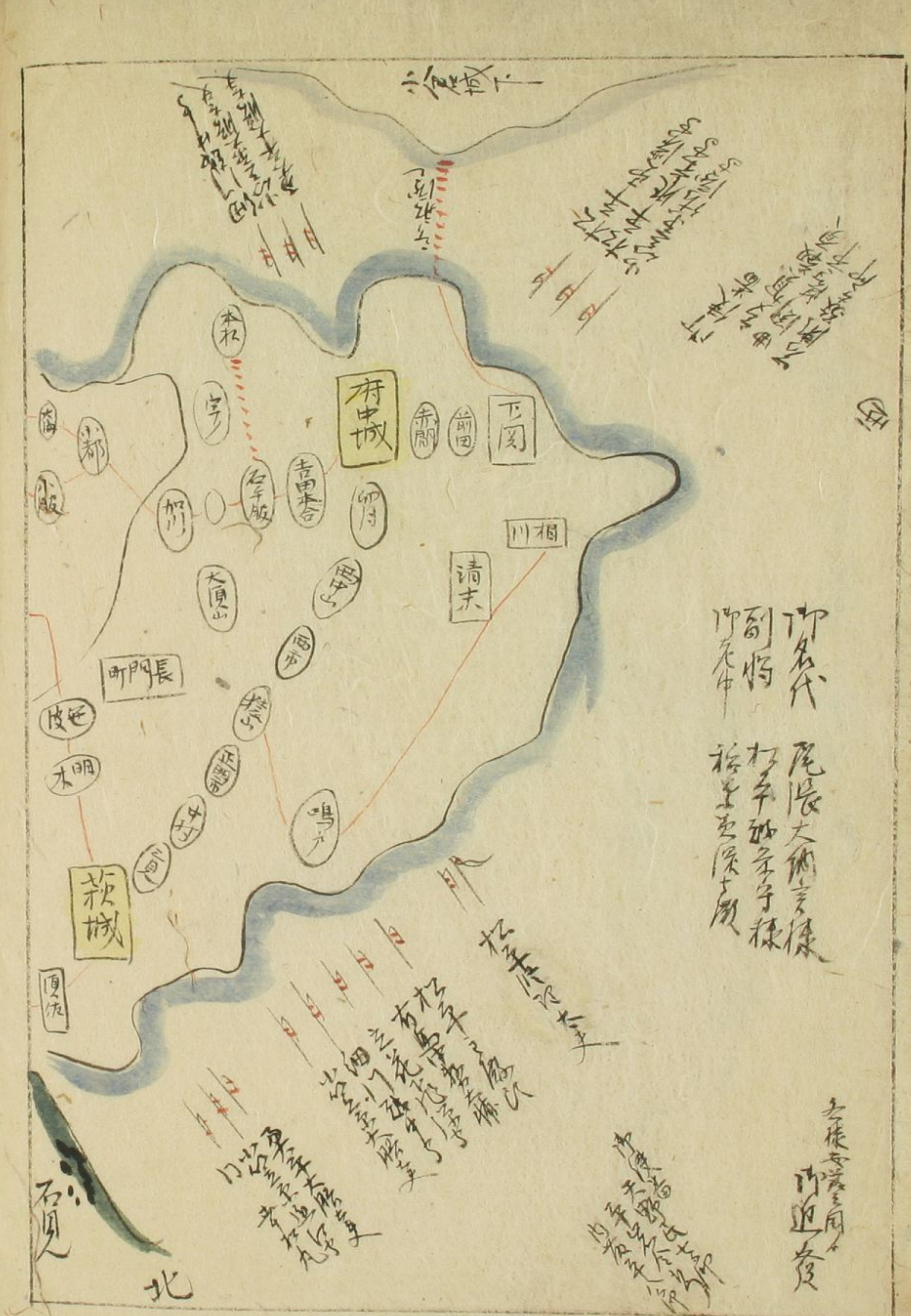
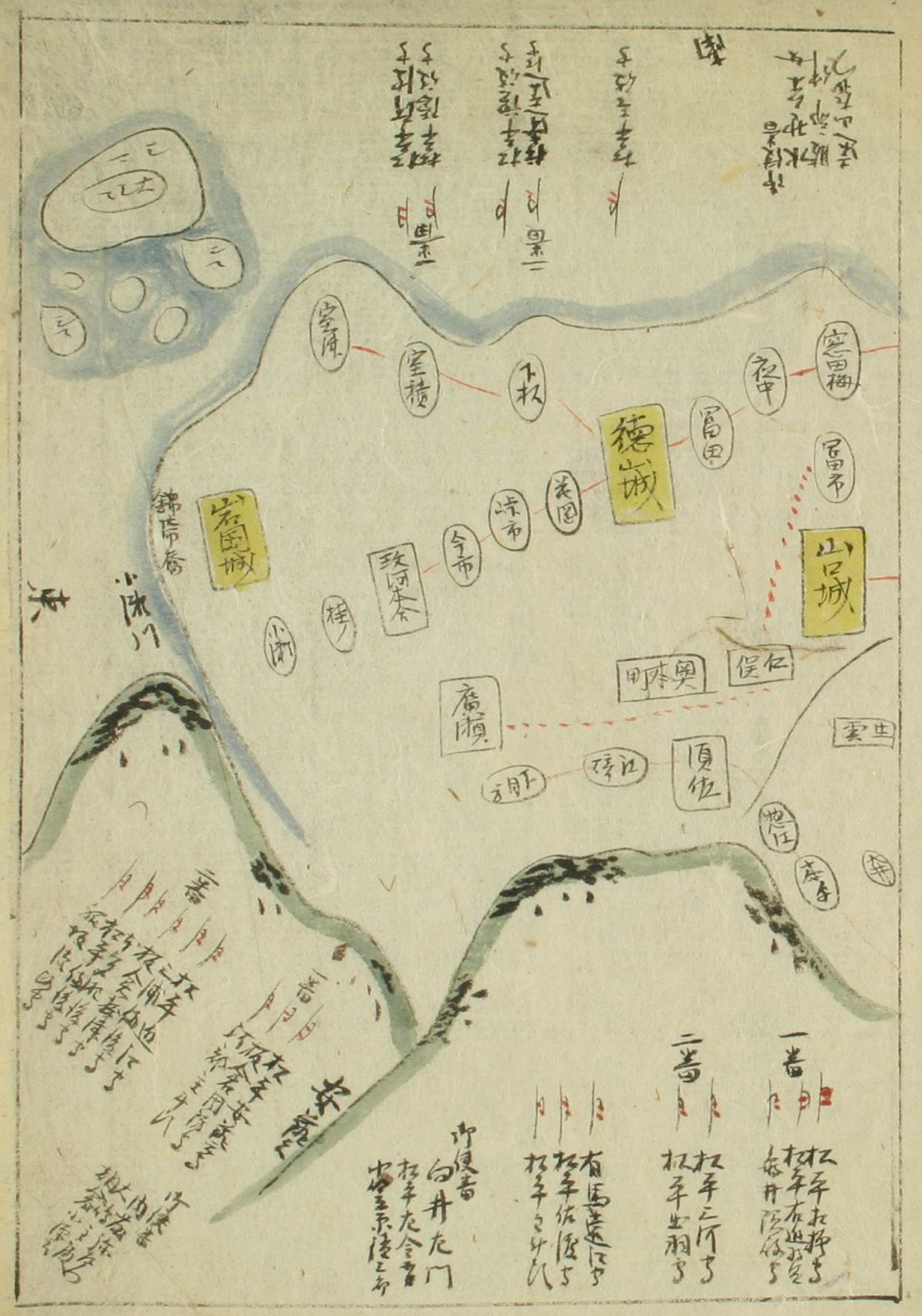
く 後防津原ハ玉家 安長を不忠奸吏
としが利欲と為るも 亦之逃碎 我後
二 下 実の倉也 以事あるに 亦子
日 録を以十年——而之—— 亦なきも
以後十年 行を 百年—— 亦之
終 彼が 御中—— 亦之入—— 亦社 彼
義—— 亦之 治—— 亦之 亦之 亦之 亦之
世—— 亦之 亦之 亦之 亦之 亦之 亦之

撰者張々々若也

天下一子母中

長州在在師

悟心



利根川
空堀城
徳城
山口城

相模川
府中城
川相

一善
二善
有馬遠江守
白井左門
松平左衛門
松平出羽守

相模川
萩城
石見

